

# 式 辞

春爛漫の今日の佳き日に、入学式を迎えられた百七名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。心からお慶び申しあげます。

本来ならば、地域の方々をはじめとする、ご来賓の皆様方に、ご臨席を賜るところではございますが、皆さんもご承知の通り、新型コロナウイルス感染症の影響により、ご遠慮いただいた次第でございます。

さて、新入生の皆さん。皆さんは今日から伝統ある住吉中学校の一員です。ここから君たちを見ていると、緊張した表情ではあるものの、「今日から住吉中学校の生徒として頑張ろう」という意気込みを感じとることができ、本当に嬉しく思います。

それでは、入学式にあたり、皆さんに期待することを、二つお話したいと思います。

一つ目は、「高い志をもつ」ということです。ダビデ像を作成したことで知られる、ルネッサンス期の彫刻家ミケランジェロは、「人間にとっての

最大の危機は、高い目標を掲げて失敗することではない。低い目標を掲げ、それを達成してしまうことだ。」という教えを残しています。

夢や目標を持たずして、三年間の学校生活は充実したものとはならないでしょう。中学校卒業後の将来を見据えて、日々の学習活動や学級活動、部活動など、学校生活全般において、高い目標や高い志をもって、それぞれの夢の実現に向けて、精一杯頑張ってください。

二つ目は、「挑戦する」ということです。今から九年前の五月、登山家である竹内洋岳（ひろたか）さんが、日本人で初めてヒマラヤの高さ八〇〇〇mを超える十四の山の全ての登頂に成功しました。幾度となく雪崩にも遭遇し、意識不明となり、奇跡的に救出されるといった体験もして、それでも山を目指し悲願を達成されました。

竹内さんは、「必ず登れると分かっていたら登る必要はない。登れないかもしれないが、登るためにはどうすればいいのか。これを考えることが最もわくわくして、登山の面白いところです。」

と述べられています。

皆さんにも、学ぶ意欲や伸びていこうとする気持ちを持ち続け、「挑戦する」ことを忘れない人であってほしいと思います。

そして、今日から始まる中学校の三年間で、仲間との絆をしっかりと深めながら、「思いやり」や「感謝する心」を忘れることなく、多くのことを学び、地域や社会に、貢献できる人となってもらいたいと考えています。

さて、最後になりましたが、保護者の皆さま方、お子さまのご入学、誠におめでとうございます。本日より三年間、大切なお子さまを、私たち教職員が、責任を持ってお預かりし、子どもたちの輝ける未来のために、教育活動に、誠心誠意取り組みんでいく所存でございます。

しかしながら、なにぶん学校だけでは不十分な点も、多々あるかと思います。保護者の皆様方の、本校教育活動への、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新入生の皆さん、一年一年が大きな節目となる、

これからの三年間が、有意義なものとなり、今日、  
入学した七十七期生が、日々着実な歩みを遂げ、  
大きく成長することを期待して、式辞とします。

令和三年(二〇二一年)四月三日

大阪市立住吉中学校

校長 坂井 伸治